

いわき農林水産ニュース

令和2年3月号(第181号) 発行 3月26日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



市内の花き生産者が春に向けて
様々な品種のお花を作っています。
大切な人へのプレゼントや自分自身
へのご褒美に是非どうぞ！

目次

- ・【特集】海産魚介類の出荷制限 全て解除！……p.1～
- 〔各種取組の実績（2～3月分）〕……p.3～
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の出荷制限等品目……p.6
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……p.6
- ・山菜等の出荷制限について……p.6
- ・チェーンソーによる伐木・造材作業の安全対策
について……p.7
- ・「ふくしまプライド。」県産農林水産物販売力強
化支援事業について……p.7
- ・GAP コーナー……p.8
- ・退職者・転出者一覧……p.9
- ・6次化商品紹介……p.10

【特集】

海産魚介類の出荷制限 全て解除！

原発事故から9年。最後の1魚種コモンカスベについて出荷制限が解除されました！

■全ての海産魚介類について出荷制限が解除されました

令和2年2月25日にコモンカスベ（エイの1種）の出荷制限が解除されました（2月号 p.7で紹介）。昨年2月に国からの出荷制限指示が出されて以降、漁業者の皆様の協力により、1,008 検体を検査し、安全が確認されたものです。これにより、現在福島県沖で漁獲される全ての海産魚介類について出荷制限魚種はなくなりました。



コモンカスベ：東北沿岸で普通に見られるエイの一種。厚みのある筋肉質のヒレの部分を煮付けや唐揚げで食べます。軟骨のコリコリした食感が特徴です。

■全魚種解除までの経緯

福島県沖で漁獲される魚介類については、平成23年3月の原発事故以降、放射性物質の影響により、これまで43魚種44品目について国から出荷制限が指示されました。制限の対象となった魚種には、本県沿岸漁業の主役とも呼べるマガレイやマコガレイなどのカレイ類や「常磐もの」として評価の高いヒラメ、スズキなど主要魚種が多数含まれ、震災後の操業再開には大きな障害となっていました。

そのような状況で、漁業者、漁業協同組合、県は、緊急時モニタリングに取り組み、データを積み重ね、安全性を確認しながら制限解除を進めてきました。平成24年イカナゴの稚魚

(図) これまで解除された品目・魚種

年	解除された品目数	主な品目・魚種
H24	1	イカナゴの稚魚（コウナゴ）
H25	2	アカガレイ、スケトウダラ
H26	6	マガレイ、キタムラサキウニ他
H27	7	マダラ、メイタガレイ他
H28	13	ヒラメ、マアナゴ、マコガレイ、ホシガレイ、コモンカスベ他
H29	5	イシガレイ、イカナゴ成魚他
H30	3	スズキ、シロメバル他
H31/R1	7	クロダイ、サクラマス他
R2	1	コモンカスベ

*コモンカスベはH28解除後、H31に再度指示がなされたため解除件数は45件となっている。

(コウナゴ) から始まり、いわきの名産品、貝焼きに用いるキタムラサキウニは平成 26 年 7 月、福島県の沿岸漁業者が取り組むつくり育てる漁業のシンボルであるヒラメは平成 28 年 6 月、「常磐もの」として全国に名高いスズキ、シロメバルは平成 30 年 4 月に制限解除となりました。そして今回、最後の 1 品目であるコモンカスベが解除され、全ての海産魚介類の出荷制限解除に至ったものです。



「常磐もの」ヒラメは、平成 28 年から水揚げを再開!

■安全・安心な福島県産水産物を流通させるために

福島県で水揚げされ、流通する水産物については、県の緊急時モニタリングのほか、漁協検査室でスクリーニング検査を実施しています。いわき地区では、小名浜魚市場に検査室を設け、地区全体の水揚げ物に対応しています。このスクリーニング検査は、水揚げされた魚について販売日毎に全魚種 1 検体を検査し、基準値を超える魚が流通しないよう管理しています。また、県水産海洋研究センターでは、検査方法や機器管理について助言や指導を行っています。



安心して食べていただくために、漁協検査室でスクリーニング検査を行っています。

この検査体制により、安全で美味しいふくしまの魚を流通させていきます。

■今後の取組

原発事故から 9 年を経て、福島県の漁業は新たなスタートラインに立ちました。昨年は、いわき市漁協久之浜地方卸売市場の再開、ヒラメ稚魚 100 万尾放流など、今後の漁業生産拡大に向けた取組が着々と進んでいます。安全で美味しい



(令和元年9月に再開した久之浜地方卸売市場)



「常磐もの」の魚介類を全国の消費者に味わっていただけるよう、漁業者の皆様と連携しながら失った販路の回復に向けた取組を進めてまいりますので、皆様の御支援をお願いします。(水産事務所)

トピック1

サヨリ漁が始まりました

いわき市漁協沼之内魚市場 (p.9 地図参照) でサヨリの初水揚げがありました。今期は海水温が高めで推移しており、サヨリ漁の着業が危ぶまれましたが、3 月に入って海水温が低下したことで、前年より 2 か月遅れでの着業となりました。

この日は約 500kg の水揚げがあり、小型サイズ (約 30g/尾) が中心でしたが、特に高値をつける大型サイズ (概ね 200g~/尾) は 20kg ほどあり、単価は 3,750 円/kg となりました。水揚げした漁業者からは「今後も水温が低めに推移すれば漁は上向く。頑張って操業して地元産のサヨリを多くの人に味わってもらいたい」とのことです。(水産事務所)

【3月4日(水)】



市場に並ぶ「サヨリ」。サンマのように細身の魚ですが、白身で繊細な旨味があります。



福島県林業普及指導推進会議を開催

〔3月9日(月)〕

いわき地区における林業の普及指導を円滑に推進するため、いわき市や森林林業関係者、ボランティア団体に参加いただき、福島県林業普及指導推進会議を開催しました。会議では、当地区の森林整備や特用林産物の振興など林業に関する普及指導や主要普及課題における今年度の実施結果、令和2年度における普及計画等について県が説明し、意見交換を行いました。



(会議の様子)

参加者からは、木質バイオマス等への需要が高まっている一方、現場で働く作業員の確保が難しく間伐等の森林整備がなかなか進まないことや、丸太等を搬出する経費が高く、森林所有者に利益が還元しづらいなどの意見が出されました。

本会議で出された意見を参考に、令和2年度も現場に寄り添った林業の普及指導を進めていきたいと考えております。
(森林林業部)

福島県議会農林水産委員会が現地調査を実施

〔3月12日(木)〕

昨年の令和元年東日本台風(台風第19号)等で大きな被害を受けた木戸川漁業協同組合(楡葉町)、あかい菜園株式会社(p.9 地図参照)及び川中子排水機場(p.9 地図参照)(いずれもいわき市)の被害状況及び復旧状況について、福島県議会農林水産委員会の現地調査が行われました。

木戸川漁業協同組合では、施設の被害状況やさけ資源増殖事業(放流用種苗の生産)への影響、あかい菜園株式会社ではトマトの低コスト耐候性ハウスの冠水被害の状況、川中子排水機場では排水機場施設の復旧状況について、それぞれ説明を受けた後、復旧に向けた取組を確認しました。

いわき農林事務所・水産事務所では、引き続き、早期の営農再開や農林道、農林漁業関係施設の復旧に向けて、関係機関と連携して対応してまいります。(いわき農林事務所・水産事務所)



(木戸川漁業協同組合)



(あかい菜園株式会社)



(川中子排水機場)

水産エコラベル(MEL 流通加工段階認証 ver.2) 取得〔2月19日(水)・26日(水)〕

水産資源の持続的利用、資源管理や環境配慮への取組を証明する水産エコラベルのひとつであるマリン・エコラベル・ジャパン(MEL)流通加工段階認証 Ver.2 を福島県漁業協同組合連合会(2/19)、小名浜機船底曳網漁業協同組合(2/26)が取得しました。この認証は、昨年12月に世界水産物持続可能性イニシアチブ(GSSI)から国際認証として承認されたものです。



小名浜に水揚げされたマサバ。今後、MEL 認証とともに流通することが期待されます。

福島県漁連では昨年3月にマサバ、ゴマサバ(まき網漁業)で漁業認証を取得しており、この水産エコラベルを活用しながら国内のみならず海外でも本県の持続可能な漁業の取組をPRすることが期待されます。

(水産事務所)

第2回いわき農業普及推進懇談会を開催

〔2月25日(火)〕

県いわき合同庁舎において、令和元年度第2回いわき農業普及推進懇談会を開催しました。

農業振興普及部では、農業者と各関係機関、団体の意見や要望をお聴きし、農業農村の実態に合わせた効率的かつ効果的な普及指導活動の展開を図っています。

会では今年度の普及指導活動実績、いわき農業青年クラブの活動実績、認証 GAP 推進等について説明するとともに、10月の令和元年東日本台風による被災状況や今年奨励品種に決定した米の県オリジナル品種「福、笑い」等について紹介しました。

また、今年度は5年ごとに作成する普及指導計画の最終年度に当たるため、令和2年度から6年度までの新たな計画の概要も説明しました。

委員からは、認定農業者の確保の難しさ、GAP 認証農産物の今後の見通しや台風からの早急な復旧、郷土食継承の重要性、地域の農業をいかに守っていくかといった内容について、活発に意見交換が行われました。



(農業振興普及部)

(懇談会の様子)

トピック2

「いわきハタチ酒プロジェクト」新酒完成！ ～二十歳の年の、米作りから酒造り体験～



若い世代に日本酒の素晴らしさに触れてもらうことを目的に、1年を通して二十歳前後の若い皆さんに米作りから酒造りまでを体験してもらう「いわきハタチプロジェクト」は、第2期の新酒が完成し、3月22日に市内で「お披露目会」を開催しました。

醸造引受け先の太平桜酒造の大平社長によると、台風19号による精米の遅れや暖冬などにより、酒造りは難しいシーズンだったようですが、香り高く味わい深い逸品に仕上がりました。1期目に続き、酒米・水・醸造所ともオールいわき産「ハタチ酒」は、



(今年のラベルデザイン)



(お披露目会の様子)

既に販売している「おりがらみ」以降も、年間を通じて下記の酒販店で販売しますので、ぜひ味わってみてください。

そして、ハタチ酒プロジェクトは「第三期」活動もスタートします。これまでの活動・今後の予定はハタチ酒の「facebook」をご覧ください。

<https://www.facebook.com/iwaki2Osake/>

(農業振興普及部・農村整備部)

取扱店舗

- ①あわのや酒店(平・大工町) ②酒のいとう(勿来町・窪田町) ③酒のまるとみ(小名浜・大原)
- ④さわきや(平・中町) ⑤タイハイ酒店(常磐・下湯長谷町) ⑥丸伊酒店(平・四丁目)
- ⑦矢吹酒店(平・六丁目)



広域農道いわき地区で橋梁上部工研修会を開催

〔2月26日(水)〕

いわき市小川町で橋梁上部工事(橋長L=173m)を実施中の広域農道いわき地区において、県内各農林事務所職員を対象に「送り出し工法架設」の現地研修会を開催しました。



(送り出し工法状況)

送り出し工法架設とは、一方の橋台から対岸の橋台に向けて桁を送り出しながら架ける工法で、安全に施工するために橋体の先端に軽い桁(手延機)を連結し、橋台(または橋脚)から橋脚(または橋台)へ次々と送り出します。本工事では下り勾配の送り出しとなるため、送り過ぎないように逸走防止装置を設置し慎重に進めています。

当所では、出来るだけ早い時期に利用ができるよう、引き続き安全に細心の注意を払いながら、事業を進めてまいります。(農村整備部)



(研修の様子)

東京オリパラ関連施設に提供する木製ベンチ製作出前講座を実施

〔1月22日(水)〕
〔2月5日(水)・28日(金)〕

子どもたちが木材に触れる機会を創出し、豊かな自然やものづくりに対する意識の醸成を図るとともに、福島県の復興及び県産木材の品質等を国内外にPRすることを目的とし、木製ベンチの製作出前講座を藤原小、高坂小、平三小の3校で開催しました。

講座では、インパクトドライバーを使用して、ベンチの土台部分をネジで固定する作業を行いました。併せて、選手の皆さんへの応援メッセージも撮影しました。それぞれベンチにはQRコードがつけられ、それを読み取るとベンチの製作風景や応援メッセージが見られる仕組みとなっています。子どもたちは、選手への思いが伝わるよう互いに協力しながら真剣な表情で作業に取り組んでいました。



(作業の様子)

(森林林業部)

トピック3

いわき市森林組合林業コンクールの表彰式が行われました

〔2月29日(土)〕

いわき市森林組合第50回通常総代会席上において、いわき市森林組合林業コンクールの表彰式が行われました。このコンクールは、森林組合員の林業技術の向上と林業経営の改善を図り、地域の林業に資することを目的に毎年開催されています。今年度は7点の応募があり、いわき農林事務所賞は、造林技術部門では佐藤一雄氏、間伐技術部門では小松金兵衛氏に授与されました。

いわき管内の人工林は高齢級化が進み、整備が必要な森林も多いことから、このコンクールの施業地が森林組合員の皆様の森林づくりの見本となり、いわき市の森林整備が促進されることを期待します。(森林林業部)



造林技術部門
佐藤一雄氏所有の森林



間伐技術部門
小松金兵衛氏所有の森林



お知らせ

いわき地方の出荷制限等品目

令和2年3月20日現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷が制限等されている品目は（表）のとおりです。

（表）農林畜水産物の出荷制限等品目（令和2年3月20日現在）

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。（企画部）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

※わらび（栽培）は該当生産者12名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和2年2月分）

□ 農林畜産物の検査結果

令和2年2月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した8品目19検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。内訳は（表）のとおりです。（企画部）

（表）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

ふきのとう（野生）2、菌床しいたけ（施設）8、菌床なめこ（施設）2、エリンギ（施設）1、菌床えのきたけ（施設）1、原木しいたけ（露地）1、牛肉 2、原乳 2
--

□ 海産魚介類の検査結果

令和2年2月の水産物モニタリング検査では、393検体の魚介類を検査し、放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。（水産事務所）

山菜等の出荷制限について

山菜の発生・採取の時期となりましたが、採取者や直売所担当者の皆様におかれましては、次の点に留意するようお願いします。

1 現在、いわき市産の山菜のうち、出荷が制限等されている品目は**別表**のとおりです。

これらの品目は地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限等は今シーズンも継続しています。出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により「基準値以下」であっても出荷・販売はできません。

（別表）いわき市産山菜の出荷制限等品目

出荷、摂取	品 目
出荷制限	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る※）、こしあぶら
出荷自粛	さんしょう（野生のものに限る）

※わらび（栽培）で出荷・販売できるものは、平成29年9月11日の出荷制限が解除に伴い出荷のための安全性が確認された、該当生産者12名のほ場で生産されたものに限ります。

※出荷制限等品目は、市町村ごとに定められています。

福島県内のは、福島県林業振興課のHP (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/>)、「ふくしま新発売。」(<https://www.new-fukushima.jp/>)、福島県外のは、厚生労働省HP (https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html)で確認していただくか、当所森林林業部へお問い合わせください。

2 いわき市産の出荷制限等品目以外の山菜については、県において緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しており、今シーズンのモニタリング検査結果を確認のうえ出荷・販売するようお願いします。

モニタリング検査の結果は、新聞や県HP「ふくしま新発売。」で公表されます。（森林林業部）



チェーンソーによる伐木・造材作業の安全対策について

平成31年2月に伐木・造材作業の安全対策を強化した労働安全衛生規則が改正されたことに伴い、去る1月に厚生労働省労働基準局通知である「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」及び「林業の作業現場における緊急連絡体制の整備等のためのガイドライン」が改正されました。

ガイドラインには、労働安全衛生規則を遵守するための具体的な安全対策の方法が記載されていますので、詳しくは、厚生労働省ホームページ (https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09175.html、https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09178.html) をご覧ください。(森林林業部)

「ふくしまプライド。」県産農林水産物販売力強化支援事業 (旧：「ふくしまプライド。」販売力強化支援事業) について

県産農林水産物の販売促進活動等を支援する「『ふくしまプライド。』県産農林水産物販売力強化支援事業」の活動団体の募集を予定しております。募集期間は4月はじめ～中旬頃を予定しておりますので、関心のある方は当所企画部までお問い合わせください。(企画部)

1 概要

県内の市町村、民間団体、県域等農業団体が県産農産物の価値を伝え、販売・消費の拡大を図るため、国内において実施する県産農林水産物の販売促進活動等に対して支援を行うとともに、県産農林水産物のブランド力の向上を図るため、GAPを取得した生産物の販売促進やパッケージやイメージロゴ作成など産地や生産物の魅力が消費者に伝わる商品づくりに対して支援を行う。

2 事業内容・補助額

国内において実施する県産農林水産物の販売促進等にかかる活動。

○民間団体事業補助額：上限 70 万円



さらに、次のような取組を行う場合には、補助上限額がそれぞれ 50 万円かさ上げとなります。すなわち、最大で 170 万円の支援が可能となる予定です(下記の両方を満たす場合)。

- ▶ GAP による生産物の PR や販売促進
- ▶ パッケージの向上による商品のブランド化



(令和元年度活用事例)
東京の物産イベントに出展し、県産農林水産物や加工品の魅力を PR!

3 補助対象経費

事業委託費、広報費、旅費、資材作成費、デザイン費、試作費、ウェブサイト作成・維持費、調査費、イベント運営経費、謝金、通信運搬費、保険料、施設借料、試食等サンプル経費、車両借上料、消耗品費 等

4 対象となる民間団体

県内に主たる事務所を置く特定非営利活動法人、事業協同組合、企業組合、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、2戸以上の農林漁業者や商工業者が組織する任意団体 等

お問い合わせ

いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

TEL 0246-24-6197

FAX 0246-24-6196

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

GAP 取得事例紹介 ～久之浜 ACHIEVEMENT VINEYARDS～

令和元年11月にぶどうでJGAP認証を取得した、久之浜 ACHIEVEMENT VINEYARDS (p.9 地図参照)の芳賀正道さん(田人町)からお話を伺いました。

芳賀さんは、県が開催した研修会でGAPの存在を知り、「消費者・実需者が安心できる農産物を販売したい」との思いから、JGAPの取得を目指しました。生産工程や使用農薬を全て開示できるほど、安全性にこだわってぶどう(醸造用)を栽培しています。



(芳賀正道さん)



GAP 取組例
(燃料置場付近への消火器設置)

取得にあたっては、ぶどうの管理作業を行いながら各種書類を作成することに大変苦労したそうですが、実際に取得してみて、「作業の安全性の向上」というメリットがあったそうです。具体的にGAPの取組を通じて、「今までは安全に作業しているつもりになっていただけで、対策としては不十分であったことに気づき、危険な作業をする際の対策を明確にしたことで、ヒヤリハットの場面が激減した」そうです。

芳賀さんは、「今後、GAPの取組により安全性に自信を持って育てたぶどうでワインを醸造し、地域を盛り上げる起爆剤としていきたい」と将来の夢を語っていました。
(農業振興普及部)

トピック4

希望の道を照らす、聖火トーチの展示を実施

〔3月5日(木)～9日(月)〕

3月5日(木)～9日(月)、東京2020オリンピック聖火トーチの展示をいわき合同庁舎1階玄関ロビーにて行いました。展示期間中は、多くの来庁者の方々が足を止めてご覧くださいました。携帯電話で写真を撮る姿や輝くトーチに見入る姿も多く見受けられ、皆さんに東京2020大会を身近に感じていただける機会となりました。



「桜ゴールド」色に輝く
聖火トーチ展示の様子



聖火トーチを上から覗くと桜
の花びらの形が分かります

聖火トーチには、東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材が素材として一部再利用されるなど、復興への思いが込められています。また、被災3県の方々には一足早く聖火をご覧くださいと、20日(金)～25日(水)の間、「復興の火」として3県で聖火の展示も行われました。25日(水)にはアクアマリンパークでも展示され、かつての津波被災地域に灯る、美しく、力強い炎が印象的でした。



〔展示期間中は多くの来庁者の方々が足を止めてご覧くださいました〕

なお、聖火リレーは本日26日(木)全国に先駆け福島県(Jヴィレッジ)からグランドスタートする予定でしたが、東京2020大会延期決定に伴い中止されることとなりました。2021年オリンピック開催の際に改めて聖火リレーが実施され、福島県から世界へ復興に向けて進む姿を発信できることを期待します。(いわき地方振興局)

退職者・転出者一覧

令和2年3月をもって退職または転出するいわき農林事務所・水産事務所・水産海洋研究センターの職員は以下のとおりです。

＜いわき農林事務所＞

職 名		名 前
所 長 <退職>		松房 政彦
次長兼総務部長 <退職>		滝口 勝利
総務部	主任主査	志賀 麻恵
企画部	主任主査	上野 純一
	主 事	国分 郁実
農業振興普及部	農業振興課長	岩野 英一
	主 査	石井 睦美
	技 師	本田 和幸
	技 師	乗田 和志
	技 師	佐藤 祐希
農村整備部	主 事	菅原 大地
	部 長	鈴木 徹
	副部長兼管理課長	先崎 秋実
	主 査	小針 真之
森林林業部	専門員 <退職>	高萩 勇雄
	主幹兼副部長	吉田 好幸
	森林土木課長 <退職>	星 辰也
	主任主査	半田 盛輝
	主 査	渋谷 純一
	主 査	長嶋 義之
	技 師	遠藤 普子

＜水産事務所＞

職 名	名 前
所 長	水野 拓治
次長兼漁業振興課長	平田 豊彦
主任主査	成田 薫
主 査	島村 信也
主 査(併任)	小野 久弘
副主査兼一等航海士	重軒 崇志
副主査	新関 晃司

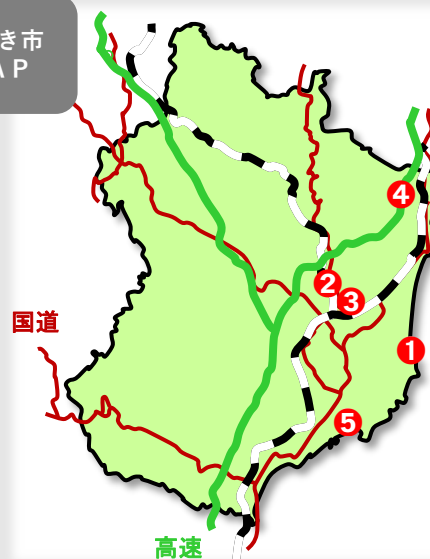
＜水産海洋研究センター＞

職 名	名 前
所 長 <退職>	涌井 邦浩
副所長兼海洋漁業部長	山本 達也
主 幹	門馬 秀幸
漁業環境部長	後藤 勝彌
主任研究員	鷹崎 和義
研究員	眞壁 昂平
主査兼一等航海士	小塚 智也

今月号に掲載した場所はここです！

- ① いわき市漁協沼之内魚市場 (p.2)
平沼ノ内浜街 186
- ② あかい菜園株式会社 (p.3)
平赤井一の町 55-1
- ③ 川中子排水機場 (p.3)
好間町川中子字五ノ神
- ④ 久之浜 ACHIEVEMENT VINEYARDS (p.8)
久之浜町末続字藤倉 43
- ⑤ (株) いわきチョコレート (p.10)
小名浜字丹波沼 61-1

いわき市
MAP



こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

小名浜の(株)いわきチョコレートは、チョコレートを中心に洋菓子の製造・販売を手掛けています。

「エゴマの米飴キャラメル」は、田村市産の無農薬エゴマや米飴、てんさい糖などを使用し、和菓子のようなやさしい甘さとエゴマの香りが口いっぱいに感じられる逸品です。

職人により手作りされているこのキャラメルは通常と異なる材料を使用しているため、安定して大量生産することが難しい、大変繊細な商品です。

また、この商品は県産農林水産物を使用した6次化商品ブランド「ふくしま満天堂」で県を代表する商品を選出する第3回「ふくしま満天堂グランプリ2019」で見事にグランプリを受賞され、県内外から注目が集まっています。

同じくエゴマを使用した「エゴマ・ショコラ」は、炒ったエゴマをチョコに練りこみ、さらに炒りエゴマをたっぷりとお側にまぶしたチョコレートで、エゴマの香ばしさと絶妙な甘味がマッチした商品です。

いわき市内では、(株)いわきチョコレート本社、いわきから・ミュウ、スパリゾートハワイアンズなどで購入いただけます。職人のこだわりの味を是非ご賞味ください。

(株)いわきチョコレート

- いわき市小名浜字丹波沼61-1 ●TEL.0246-53-5265
- Web: <https://www.shiochoco.com/>



エゴマの 米飴キャラメル

- 価格 / 540円(税込)
- 内容量 / 10個



エゴマ・ショコラ

- 価格 / 540円(税込)
- 内容量 / 2個



職人さんが丁寧に手作りにしています。



柳沼代表取締役(右)と職人さん

所在地は p.9 のマップを参照

編集後記

だんだんと暖かい日が多くなり、新川沿いの桜は数輪の花が咲き始め、例年よりも早く見頃を迎えられそうです。

先日、1月に開催した「農村体験ツアー」(1月号掲載)で首都圏の学生たちが田人町でつくった凍み大根をいただきました。早速調理して食べてみたのですが、大根の旨味がギュッとつまった優しい味わいで想像以上に美味しかったです！生の大根より栄養が豊富なのも嬉しいですね。

令和元年度も残りわずかとなりました。本誌では次年度もいわきの農林水産業に関する様々な話題をお届けしてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース